

# ヨドコウ迎賓館 (旧山邑家住宅)

YODOKO GUEST HOUSE  
[ The former residence of the Yamamura family ]

## 自然との調和を理想としたF・L・ライト設計の住宅

兵庫県芦屋市のヨドコウ迎賓館は近代建築の巨匠、F・L・ライトが酒造家、山邑太左衛門の別邸として設計した鉄筋コンクリート造の建物。六甲山の地形を生かした階段状の外観で知られ、国の重要文化財に指定されている。また、ライトの母国・アメリカ以外に現存する希少な住宅作品でもある。



2階応接室は大窓から広がる景色が印象的な空間。袖壁や暖炉は温かな風合いの大谷石で、内装材として使用したのはライトが最初とされる。上部に並ぶ小窓は通風孔



山の斜面と一体化するように建てられた旧山邑家住宅。ライトはこの敷地を気に入って設計を引き受けたといわれている



南から北へ建物の各層を階段状に積み上げている。邸内からの眺めも変化に富む



来客を迎える車寄せの装飾。大谷石は加工が容易で、ライトが好んだ幾何学模様を彫るのに適していた



地形を生かすために多様な階段が造られた。1階から4階へ一気に上がる階段はない



夕方には窓の飾り銅板が美しい模様を投影する。窓は外開きで、風を取り込むのに良い



船底を思わせる4階食堂の天井。三角形の換気用兼採光窓から空が見える。木製飾りもあり、邸内で最も装飾が豊かな部屋。右奥に厨房の扉がある



ライトの設計にはなかった三間続きの和室。山邑家の要望で洋室から変更したとされる



温水の蛇口もある洗面台(左)。浴室にも飾り銅板のついた採光窓が見られる



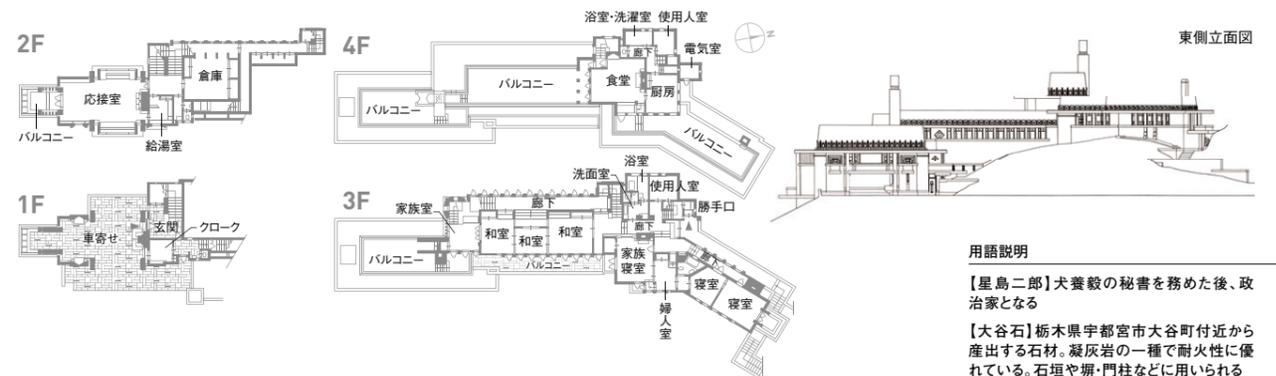
4階のバルコニー。緑を背景にした煙突の意匠がユニーク。大阪湾へ眺望が広がる

ヨドコウ迎賓館(旧山邑家住宅)は兵庫県の灘の酒造家、8代目山邑太左衛門の別邸として大正13(1924)年に竣工した。大正7年にフランク・ロイド・ライトが基本設計を完了、愛弟子の遠藤新、南信が建設した。当時、ライトは帝国ホテル建設のために来日中で、遠藤新と山邑家の娘婿・星島二郎が親友であったことから設計が実現した。

機能主義を掲げる欧米の近代建築に対し、ライトは異端ともいわれる「有機的建築」を提唱、自然から学んだデザインを多用し、自然との調和、一体化をテーマとする建物を手

がけた。旧山邑家住宅も山の斜面に沿うように4階建ての各階を階段状に設計。3階北側を東へ曲げたのも、3階屋内に複数の短い階段を設けたのも地形を生かすためとされる。自然との調和をめざしたデザインは邸内の随所に見られる。2階応接室の入り口は狭くしつらえてあり、室内の広さを強調する趣向。入室すると、東西に開けた2つの大窓から近隣の自然が風景画のように望め、ドラマチックである。それまで日本では屋外用素材だった大谷石を屋内に使用したことも特徴で、彫刻を施した大谷石の壁を屋外から室内へ続け

て屋内外の一体化を図っている。また、3階西側廊下に外開きの大きな大窓があるが、これも「室内を屋外と関連させ、外に向かって自由な開放を得る」というライトの考えを反映したものである。邸内のあちこちに見られる植物の葉をモチーフにした飾り銅板をこの窓にもあしらっており、西日の頃は木漏れ日のような光と影が廊下に落ちて、美しい。かつての山邑家には使用人がおり、客用とは別の廊下や厨房への階段、風呂もある。この住宅はライトの思想を表すとともに、当時の暮らしを伝えていて貴重である。



用語説明

【星島二郎】犬養毅の秘書を務めた後、政治家となる  
【大谷石】栃木県宇都宮市大谷町付近から産出する石材。凝灰岩の一種で耐火性に優れている。石垣や塀・門柱などに用いられる